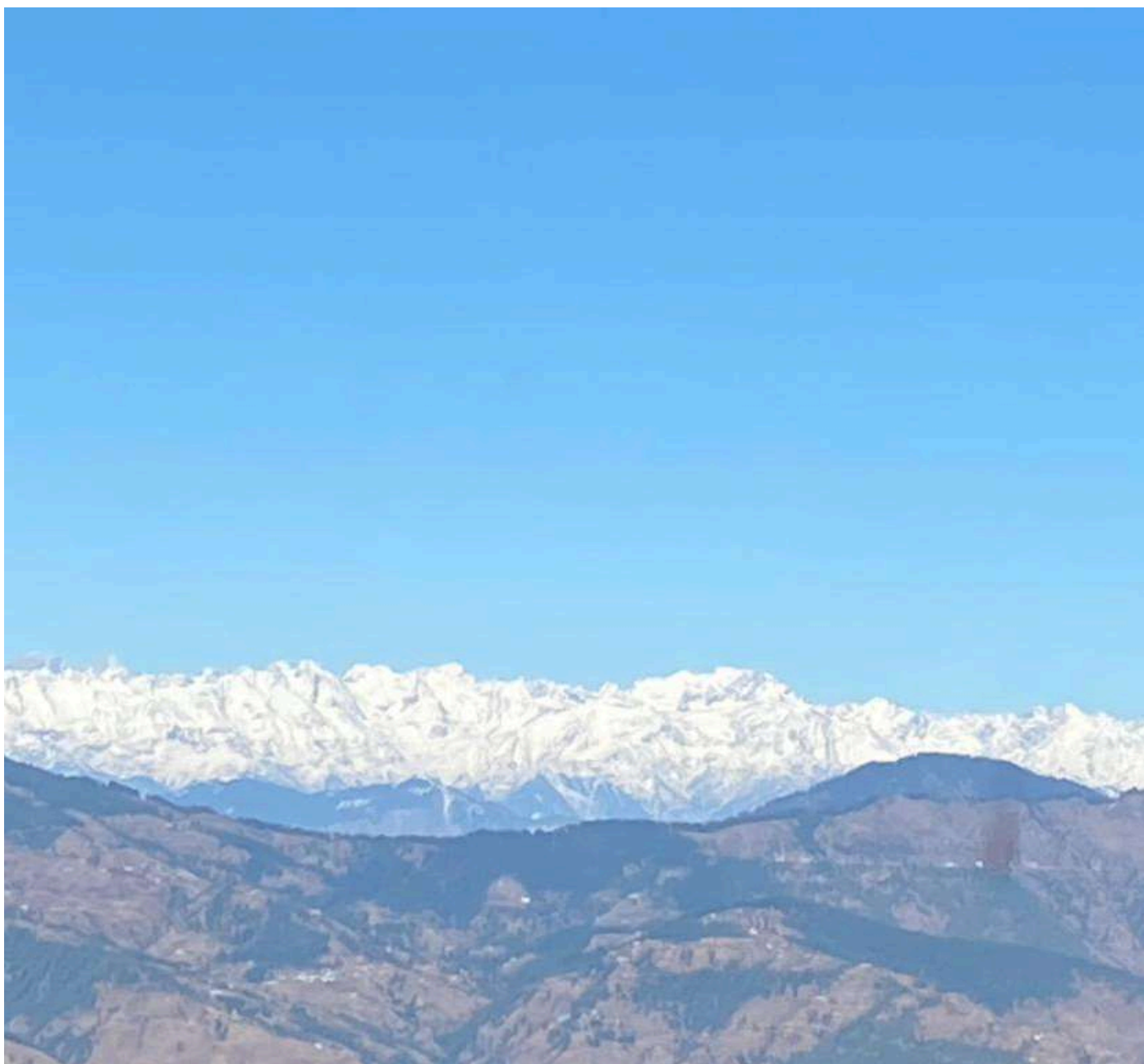


7月&8月合併号

JULY & AUGUST
2025

MJIA

M A G A Z I N E



デリー便でカンプール上空の機中から

公益財団法人日印協会

住 所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階
電 話 番 号：03-6272-4408 <https://www.japan-india.com>



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、日印間の政治・経済・文化交流に貢献しています。

目次

モディ長期政権の業績と3期目の課題

日本経済研究センター主任研究員 兼日本経済新聞シニア・ライター 山田 剛 4

インド紹介 ビハール州 8

India Japan Talent Bridge Programのご紹介 10

インド映画公開情報 印度映画広報室 13

書籍紹介

鈴木千歳氏の集大成「蓮の花の知恵 ―インドの児童文学にかかわって」 15
安楽瑛子「汗と笑いと煩惱のアジアミックスカルチャー絵日記」

日印協会からのお知らせ 17

法人会員一覧 19

インドの良き食文化をお伝えする事が私たちの使命です。（全国配送承ります）



シタルのインドカレー
変わらぬ人気のカレー
をそのままのお味で、
ご家庭へ。

社長の増田泰親は学生時代、当時九段にあった印度料理アジャンタでアルバイトとして入店し、大学卒業後はコックとして修業を積み、1981年に千葉市で印度料理シタルを創業いたしました。



アルフォンソマンゴードリンク
アルフォンソマンゴー
といえばシタル。自信ある逸品です。

社長の増田泰親が情熱を傾けるアルフォンソマンゴーから作る無添加ドリンクです。毎年インドの農園へ行き品質を確認して原料となるマンゴーを輸入しています。



野生黒蜂蜜 ハンティングハニー
インド メルガートの自然保護区でハニーハンターによって採集される貴重な蜂蜜です。



おうちでつくれるチャイセット
インドのパザールで飲む味そのまま！おうちで簡単チャイキット。マサラとレシピ付。

味と香りの調へを奏でる since1981
シタル 印度料理シタル
千葉県千葉市花見川区検見川町 1-106-16
mail : info@sitar.co.jp

■上記以外の商品も多数取り揃えております。

■個人様、企業様向け季節のギフトなどのコーディネートもご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは **TEL 0120-166-358** <http://www.e-sitar.jp/> へ

モディ長期政権の業績と3期目の課題

日本経済研究センター主任研究員 兼 日本経済新聞シニア・ライター 山田 剛

2029年まで大国インドのかじ取りを任されたナレンドラ・モディ首相(74)と与党・インド人民党(BJP)主導の政権は、PLI(生産連動型インセンティブ)の導入や半導体産業支援などで製造業誘致や雇用創出に一定の成果を挙げ、積極的なインフラ投資による成長戦略も高く評価されている。その一方で農民の不満への対応が後手に回り、ヒンドゥー色が濃くイスラム教徒に厳しいとされる数々の政策への批判もあって2024年総選挙は与党連合が大きく議席を減らす結果となった。しかしBJPはその危機感をバネに最大の支持母体であるヒンドゥー団体・民族義勇団(RSS)との関係を再構築し、政権基盤の強化に成功した。今年9月に75歳の「定年」を迎えるモディ首相の後継レースも静かに動き始めた。「2047年までの先進国入り」を掲げるモディ政権の業績を評価し、未来を展望してみたい。

I. 議席大幅減もモディ人気は健在

2024年総選挙で単独過半数維持に失敗したモディ政権は、有力地方政党を取り込んだ連立政権を発足させた。25年度予算案では早速、友党である地方政党に配慮したインフラ支援などを盛り込んだ。大きな議論を呼んだ「カースト国勢調査」の実施も、彼ら地方政党の要求を受け入れた結果だ。



24年総選挙でBJPを勝利に導き、支持者らにVサインを示すモディ首相 (BJPのHPより)

国民会議派など野党が勢いを増しているとはいえ、BJPは過去1年の州議会選で勝ち続けており、直ちに政権基盤が揺らぐようなことはないといえるだろう。

有力誌「インディア・トゥデイ」が2月

に実施した世論調査ではモディ首相のパフォーマンスが「非常によい」または「よい」とした回答が62%に達した。インフレ懸念がひとまず解消されたことでインド中銀(RBI)は連続利下げに踏み切っており、中間層減税と相まって消費増が期待できる。あとは農業生産を左右する6～9月の降水量しだいだが、7月下旬時点で累積降水量は平年を5～6%上回っており、まずまずの豊作が見込まれる。

II. 大国相手にしたたかな外交

インドはウクライナ侵攻で世界から批判を浴びたロシアともブレずに付き合っている。国際価格の3割引とされる価格で原油を大量に輸入していることもあるが、G20(主要20カ国・地域)首脳会合など国際会議の場では注意深くロシア批判を避け、かの国のメンツを保つ努力を続けている。

厄介な隣人である中国とも国際情勢を追い風にうまく渡り合っている。2020年のヒマラヤ・ガルワン渓谷での印中「衝突」後に打ち出した「中国ボイコット」が失敗したとみるや、インド政府は中国からの投資

受け入れに大きく方針を転換。インドに有利な条件付きで中国の対インド直接投資をコントロールしようと動いている。

世界が翻弄されている「トランプ関税」でも、医薬品や自動車部品などでは譲歩して有利な取り計らいを引き出そうとしている。ただ、問題は農産物の市場開放だ。中国からの安価な農産物流入を警戒してRCEP（地域的包括的経済連携）から事実上脱退したインドとしては、アメリカの要求には応じにくい。7月下旬時点で対米交渉に大きな進展は見られない。

そしてパキスタン。両国の武力衝突は4日間での幕引きとなったが、相互の空域封鎖や、インドが「インダス川水利協定

（IWT）」の履行停止を宣言したことで南アジア経済全体へのリスクを顕在化させた。政権内右派からの圧力や中国という要素もあってパキスタンへの妥協は難しく、当面2国間の緊張は続きそうだ。

III. 成果を挙げた経済政策

第1～2期のモディ政権はインド初の「全国統一の消費税」であるGST（物品・サービス税）の導入や、180日の期限付きで企業の破綻処理を進める債務超過・破産法（IBC）の施行、生産高に応じて補助金を支給し、製造業振興の切り札となったPLI、そしてEV（電気自動車）や半導体産業への積極支援などで高成長軌道を回復しつつある。

24年度の経済成長率は+6.5%とコロナ禍後最低とはなったが、現行25年度は減税や利下げなどの効果と農業部門の豊作で6%台後半の高い成長が見込まれる。

その一方で、メディアの忖度もあってあまり取り上げられないが、モディ政権は拙速な「コロナ勝利宣言」で感染第3波を招き、ブラックマネーをあぶり出す効果がなかった上に零細商工業者に大打撃を与えた「高額紙幣廃止」や、農民の疑心暗鬼によって施行からわずか1年余りで廃止に追い

込まれた「新農業法」など、失敗も目立つ。



PLIは投資誘致や雇用創出で大きな成果を挙げた（印報道情報局＝PIB＝の公表データ）

各種世論調査では、政権への不満の上位にはほぼ毎回「物価高」と「失業」がランクされる。足元で消費者物価は沈静化しているが、インフレの主因は農村でのボトルネックが食料価格を押し上げているため、今後も再燃する恐れがある。皮肉なことにモディ氏を支持してきた高学歴の若者ほど就職に苦労しているが、これは主に求職者側のスキルに問題があるとされており、高等教育そのものの改革が必要となる。

IV. モディ4.0に走り出すBJP

モディ政権の後ろ盾であるRSSは、公称400万人のメンバーを抱え、選挙では抜群の動員力を発揮してきた。野党議員は25年3月に「RSSがモディ首相の後継を決める」と発言したが、BJPはすかさず反論。自身もモディ後継候補に名前が挙がっているデベンドラ・ファドナビス州首相（県知事に相当、55）は、「我々は後継者の選定などやっていない。2029年以降も首相はモディ氏で行く」と明言した。これが実現すれば、モディ政権は初代首相ネールの約16年9カ月を超えてインド史上最長となる。

アルン・ジャイトリー元財務相、スシュマ・スワラジ元外相といった同世代のライバルが相次ぎ死去するという巡り合わせもあり、モディ氏の党内基盤はほぼ盤石だ。BJPには「75歳定年」という内規があるが、あくまでも慣例。決定権はもちろんモディ首相自身にあるので問題はない。

BJPは根強い人気を誇るモディ氏の一枚看板と言えるため、後継レースはあまり盛り上がっていないが、その一番手と目されるのがグジャラート時代からの側近で、治安維持やテロ対策だけでなく選挙戦も仕切るアミット・シャール内相（60）だ。

次がインド最大のウッタラプラデシュ州首相を務めるヨギ・アディティヤナート氏（53）。ヒンドゥー聖職者出身だが、経済政策にも明るく指導力もある。だが、治安維持のための強権的な手法が目立つこと、中央での閣僚経験や外交経験ゼロというのがマイナス材料だ。世代交代を進めるなら先述のファドナビス氏が有力。24年総選挙で州内の獲得議席を大きく減らして進退伺提出に追い込まれていたが、同年の州議会選で地域政党と組んで圧勝し、論功行賞で州首相に返り咲いた。脱落したかに見えたモディ後継レースにも復帰した形だ。しかし、どの人物にも決め手はなく、「モディの次はモディ」というシナリオが徐々に現実味を帯びてきている。

V. RSSとの和解、関係再び強化

モディ一強への反発に加え、BJPのJ・P・ナッダ総裁が「もうRSSの支援は必要ない」と発言したことでBJPとRSSの関係は悪化。24年の選挙戦でもRSSがフルに働かなかったという指摘もある。

総選挙で大幅な議席減に見舞われたBJPはすかさずRSSとの関係修復に動き、マハラシュトラ州議会選ではRSSの全面協力が復活して圧勝した。



各地で行われるRSSの訓練キャンプ。一見武闘派に見える団体だが、選挙では抜群の集票力を見せつけてきた（RSSのHPより）

反イスラム的、ヒンドゥー色の濃い政策が、イスラム教徒はもちろん、被差別カースト民や穏健なヒンドゥー教徒にも嫌われたという教訓から、RSSは宗教がらみの過激な主張を引っ込め、政権側もRSSの意見をしっかりと聴くなど双方が歩み寄った結果といわれている。

VI. BJP、悲願の「全国制覇」へ

党員数公称1億人で、「世界最大の政党」を自称するBJPだが、正真正銘の全国政党へと飛躍するためにはインド東部、そしてインド南部への勢力拡大が不可欠だ。

BJPは南インドにおいて、IT都市ベンガロールを擁するカルナタカ州以外で政権を取ったことがない。南部の中核州タミルナドゥ州にはヒンディー語教育の義務化などBJPの「ヒンドゥー政治」に批判的な地域政党ドラビダ進歩同盟（DMK）党首のM・K・スターリン州首相が君臨し、企業誘致やインフラ整備に手腕を発揮してきた。

一方、東部最大の都市コルカタを州都とする西ベンガル州では、2011年に、34年間続いた左翼政権を倒した草の根会議派（TMC）が政権を握る。州首相を務めるのは連邦鉄道相などの経験がある女性政治家ママタ・バナジー氏（70）だ。

近年は徐々に得票率を増やしているとはいえ、連邦与党BJPは南部諸州で苦戦が続いている。昨年の総選挙でもタミルナドゥ州では議席ゼロ。ケララ州では16人を擁立して1議席しか獲得できなかった。これは、南部においては宗教やイデオロギーよりも民族や言語のアイデンティティがより強いことを示している。

シャー内相は3月末、2026年の州議会選でこれら2州の政権を奪取すると宣言、州支部へのテコ入れを行っている。東部と南部での戦いはBJPにとっては新たな挑戦となる。

Ⅶ. 議論呼ぶ「区割り」と「カースト調査」

そうした中、インド政界に大きな波紋を広げたのが2029年総選挙に向けた区割り問題だ。人口抑制に成功したタミルナドゥなど南部諸州と、相変わらず人口が増え続けるウッタルプラデシュ、ビハールなどの北部州との間で議員1人当たりの有権者数の差、つまり「1票の格差」が2倍近くにまで広がったからだ。

憲法の規定に従い各州の人口に応じた区割りを実施すれば当然人口の少ない南部の議席割り当てが減るため、南部諸州は猛然と反発している。

2026年の区割りが規定通りに行われると、約2億4000万人が暮らすインド最大のウッタルプラデシュ州への議席割り当ては今の80議席から91議席に増え、ビハール州も40から50議席へと大きく増える見通し。

これに対して南部ではタミルナドゥ州が39から31議席へ、ケララ州は20から12議席へと減らされる。

GDPの3割を稼ぎ出す南部の国政における影響力が低下することは政党だけでなく州民にとっても到底容認できない、というわけだ。



25年3月、南部州の指導者らが公正な区割りを要求して開催した決起集会（DMKのHPより）

そして、この「区割り」の前提となるのが、コロナ禍で延期され26～27年にかけて実施することになった国勢調査（センサス）だ。センサスでは連立友党の要望や野党の突き上げもあって「カースト調査」を盛り込むことになっている。その主眼はカースト最下位の不可触民（ダリット）より上位で、巨大な票田でもある「その他後進カースト（OBC）」への配慮だ。

現在、OBCには公務員採用や国立大学の入学などで27%の優先枠があるが、センサスを実施すればOBC人口がこれまでの前提より多い全体の50%前後という結果が出るとみられている。当然留保枠の拡大などOBCに有利な政策が求められるようになるため、インド政治の風景が一変する可能性もある。

「モディ4.0」までが視野に入ってきたBJP政権だが、早急にクリアすべき課題は山積みとなっている。

ビハール州

概要

- * 州都：パटना
- * 人口：1億410万人（2011年国勢調査）
（2023年推計：1億3千万人）
- * 面積：9万4163km²
（県（District）：38）
- * 識字率：79.8%
（2023年ビハール州センサス）
- * 宗教別人口比率：ヒンドゥー教(82%)、
イスラム教(17.7%)、キリスト教（0.05%）、
仏教（0.08%）
（2023年ビハール州センサス）
- * 主要言語：ヒンディー語（州公用語）、
ウルドゥー語



政治

（1）州政府

- * 州知事：アリフ・モハンメド・カーン（Arif Mohammed Khan）（2025年1月～）
- * 州首相：ニティッシュ・クマール（Nitish Kumar）（JDU）（2005年2月～）

（2）州議会：二院制

下院（定員：243）（2025年11月任期満了）

- * 与党：ジャナタ・ダル統一派（JDU）43、インド人民党（BJP）74、他
- * 野党：国民民衆党（RJD）75、 कांग्रेस党（INC）19、
共産党マルクス・レーニン派（CPI（ML）（L））12、他

上院（定員：75）（任期6年、2年毎に3分の1改選）

- * 与党：BJP 24、JDU 21、他
- * 野党：RJD 17、INC 3、他

（3）概況

2005年に州首相となったニティッシュ・クマール州首相は、自ら率いるJDU単独では過半数以上の議席を確保したことはないが、最初はBJPとの協力によるNDA連立政権の首相として、途中、与野党逆転となる連立組み換えも行い、今日まで9期にわたり、20年以上州首相の座に留まってきた。2020年州議会選挙では与党側のNDAが僅差で勝利し、州首相を継続。2022年、NDAと袂を分かち、 कांग्रेस党、RJD等が主導するマハーガトバンドン（ヒンディー語で大連合の意）連立政権の州首相となったものの、2024年1月には、再び、BJPとの協力に戻り、自らを州首相とするNDA連立政権を復活させた。

経済・産業

(1) 主要指標

- * 名目州内総生産(G S D P)：8兆5443億ルピー(2023年度)
- * 1人当たり所得：6万6828ルピー(2023年度)
- * 実質G S D P成長率：9.2%(2023年度)
- * 州内総付加価値(G V A)構成比：第一次産業19.9%
(うち、畜産9.9%、穀物6.3%)
第二次産業21.5%
(うち、製造業7.6%、建築11.3%)
第三次産業58.6%

(2) 概況

ガンジス河流域の肥沃な土地に恵まれ、労働人口の77%が農業関係に従事し、農業生産がG S D Pの約4分の1を占めており、2023年度は、前年度より米の生産が21%増、小麦の生産が11%増となった。工業は他州に比べ後進であるが、2011年から2024年までの運輸・通信分野の成長率は7.6%(10.1%のUP州、7.7%のカルナータカ州に次ぐ全州で3番目の高成長)となった。

2025年2月に国会上程された連邦政府予算案には、西部コシ運河延長・改修・近代化計画、パトナ空港の能力拡大及びビータ放棄地空港建設、I I Tパトナ校ホステル増設及び施設改善、食品技術・企業家精神・経営研究所創設等が盛り込まれ、ビハール州開発への重点配分姿勢が示された。

日本との関係

(1) 在留邦人数は多くないが、ブッダガヤ(中心にある大菩提寺はユネスコ世界遺産)には日本寺もあり、常駐もしくは一時的に複数の日本人僧侶が滞在している。また、ブッダガヤの他、ラージギル、ナーランダ等の仏跡に多くの巡礼者や旅行者が訪れる。

(2) 進出日系企業：67拠点(2024年10月現在)

進出日系企業拠点のほとんどが金融・保険業関係の窓口支店であるが、ブリジストン、マルチ・スズキ、ホンダ、ソニー、ダイキン、タタ日立等が販売・サービス関連拠点を持つ。

(3) 日本は、J I C Aを通じた円借款事業により、ビハール州道路整備事業(2014年～)やパトナ・メトロ建設事業(2023年L/A締結)に協力。

(4) 2018年、クマール州首相が訪日し、安倍総理表敬、河野外務大臣、細田日印友好議員連盟会長、荒井奈良県知事他と会談した他、ビジネス・セミナーでビハール州への投資、日本企業参入を呼び掛けた。

(5) 2015年に開設されたパトナ州立博物館の設計は日本の楢総合計画事務所による。

India Japan Talent Bridge Programのご紹介

高度インド人材の力をもっと日本に
持続的な成長とイノベーションを促進する経産省推進の共創型技術人材交流事業：

人口増加と経済成長が著しいインドと、IT人材不足が深刻化する日本。両国の課題を解決し、経済成長を加速させる鍵は、高度IT人材の交流にあります。経済産業省が推進する「グローバルサウスとの連携強化に資する共創型技術人材交流事業」を通じて、日本の成長産業を支えるインドの高度IT人材を日本企業に招き、技術革新と経済の持続的成長を目指します。

日本政府は、今後5年間で5万人規模の日印人材交流を目指す方針を打ち出しており、両国間の人材交流を促進する動きが加速しています。

特に、**インド工科大学(IIT)などの高度人材は、日本の成長産業である半導体やAI分野において、技術革新をもたらす重要な存在**です。

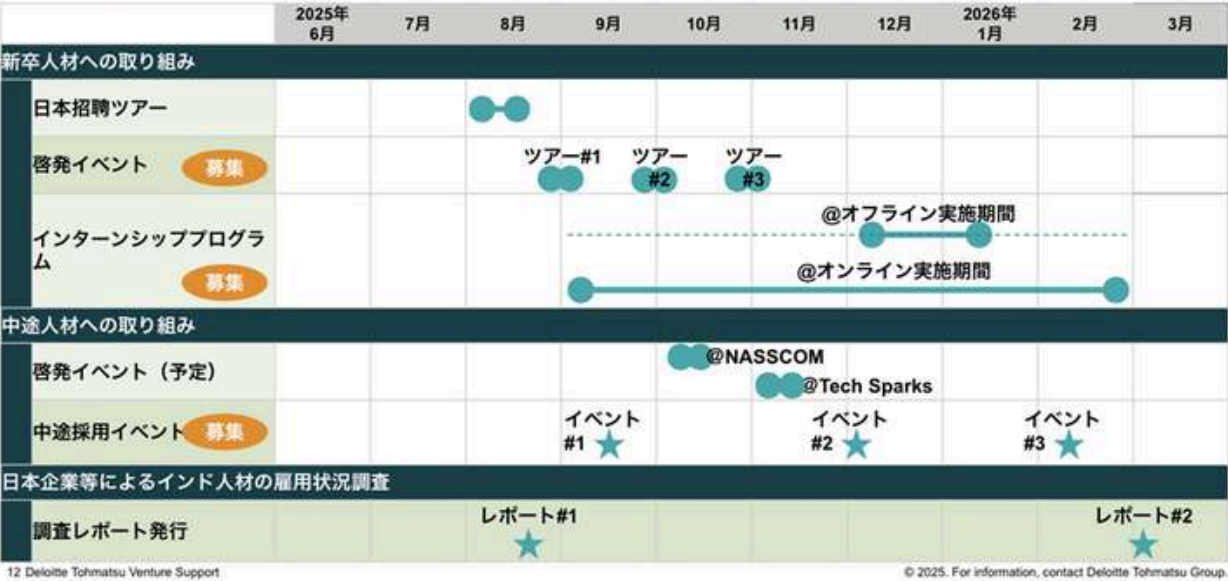
今回は、インド人材をより日本企業が円滑に受け入れるため、以下の支援を経産省推進のもと提供いたします。

- 受入準備支援： 企業文化に合わせた研修プログラムや、インド人従業員向けの生活サポートなど、受け入れ体制を構築します。
- 認知拡大・採用イベント運営： インド国内の大学で認知度向上イベントや採用イベントを開催し、高度人材との接点を創出します。貴社の魅力を直接伝え、優秀な人材の発掘を支援します。
- インターンシッププログラム運営： インド人学生向けのインターンシッププログラムを設計・運営し、日本企業への理解を深めるとともに、採用後のミスマッチを防ぎます。
- キャリア採用イベント： 日本、インド、世界各地でオンライン形式の採用イベントを開催し、グローバルな視点での人材採用を支援します。

9月頃より実施される各プログラムへのご参加を希望される企業を募集しています。



本事業の全体スケジュール



本事業に参加いただくメリット

- 優秀なインド人材へのアクセス: IIT等のインドトップ大学を視察し、また学生に直接アプローチすることができます。
- 採用コストの抑制: 政府補助により、インド視察及びインターンシップ実施に係る費用の多くが補助されます。
- グローバルな事業展開の加速: インド市場に関する深い知識を持つ人材を獲得することで、海外市場への進出を加速できます。

本事業では、各取り組みへの参加に伴う費用の一部負担を通じて、本プログラムにご参加される企業をご支援いたします。



各プログラムの負担金一覧（概要）

	負担金額	負担対象	申し込み期限	選考通知 (予定)	実施日 (予定)
啓発イベント (8校、合計3ツアー)	実費精算 (事務局が手配)	・ 渡航費 ・ 宿泊費 ・ インド国内交通費 ・ 諸経費（一部）	・ 7/11(金)	7/22(火)	A) 8/25-9/5 B) 9/22-10/3 C) 10/27-10/31
インターンシッププログラム	オフライン 日本 インド	・ 渡航費 ・ 生活費 (住居、食費) ・ 国内交通費 ・ 諸経費（一部）	・ 8/29(金)	個別に 事務局より ご連絡	25年9月 ～26年2月 (12月の実施 が中心)
	オンライン	—	・ 9月開始：6/30 ・ 10月開始：7/31 ・ 11月開始：8/31 ・ 12月開始：9/30 ・ 1月開始：10/31		9月開始
キャリア採用セミナー (オンライン、合計3回)	—	—	・ 9/15週開催：7/31 ・ 12/1週開催：9/30 ・ 2月上旬開催：11/30		#1) 9/15週 #2) 12/1週 #3) 2月上旬

13 Deloitte Tohmatsu Venture Support ※金額はいずれも概算 ※負担対象・金額の詳細は本プログラムの説明書兼申込書に準ずる 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

【Tech Japan代表 西山直隆のコメント】

Tech Japanは、インド工科大学との強固なネットワークと、高度人材に特化したAIプラットフォームTalendyを通じて、日本企業とインド人材のマッチングを支援してまいりました。本事業では、これまでの経験を活かし、日本企業のグローバル競争力強化に貢献できるよう、尽力してまいります。

インド人材の採用は、貴社のグローバル戦略を加速させるための重要な一歩となります。ぜひ、本事業にご参加いただき、高度インド人材の力を貴社の成長戦略に組み込んでください。

【過去インターンシップを実施し、採用にいたった企業からのインド人材に対する声】

自分で勉強して作ろうという意欲とスピード感が、期待をはるかに上回っていましたね。うちに入ってくる新卒は、日本人でも比較的自分で考えて行動できるタイプの人が多いです。しかし、インドのみなさんは桁違いでした。一つの開発言語を5日くらいで学習していましたから。数学の基礎がしっかりしているので分析の話もすぐに理解してくれましたし、地頭の良さを感じました。

【お問い合わせ】

本事業にご興味をお持ちの企業様は、下記QRコードから問い合わせフォームへの入力または以下事務局までご連絡ください。

受託業者：

デロイトトーマツベンチャーサポート(株)

Tech Japan(株)

メールアドレス(両方入れてください)：

- india_hr_exchange_support@tohmatu.co.jp
- India_hr_exchange_support@techjapan.work



<インド映画公開情報>

1. 『何も知らない夜』

映画学校の寮の片隅から発見された学生L（エル）が恋人に宛てた手紙から、叶わなかったLの恋とその背景にある社会問題、政府による学生運動の弾圧事件が明かされていく。第77回カンヌ国際映画祭グランプリ受賞作『私たちが光と想うすべて』（2024）のパヤル・カパーリヤー監督が同作の前に発表し、第74回カンヌ国際映画祭ゴールデン・アイ賞（ベスト・ドキュメンタリー賞）、山形国際ドキュメンタリー映画祭2023大賞を受賞した作品。

監督・脚本：パヤル・カパーリヤー

手紙の朗読：ブーミシュタ・ダス

配給：セテラ・インターナショナル

原題：A Night of Knowing Nothing

2021年／103分／フランス・インド合作／映倫区分G

©Petit Chaos - 2021

8月8日（金）よりBunkamuraル・シネマ 渋谷宮下ほかにて限定公開

<https://naniyoru.com/>

2. 『銃弾と正義』

凶悪犯罪の捜査にあたり抵抗し反撃してくる犯罪者を迎え撃ち、“狩人”の異名をとる名物警察官アディヤン。人権擁護派の判事サティヤデーヴはアディヤンの捜査手法を強い危機感をもって注視していた。ある女性教師のレイプ殺人事件の捜査を通じて2人は正面から対決するが、同時期に起きていた別の社会問題が明らかとなっていく。“ビッグ・B”アミターブ・バッチャンと、“スーパースター”ラジニカーントが共演し、特例射殺（エンカウンター）の是非を問うアクション大作。

監督：T・J・ニャーナヴェール

出演：ラジニカーント、アミターブ・バッチャン、ファハド・ファールシ、ラーナー・ダググバーティ、マンジュ・ワーリヤルほか

原題：Vettaian

2024年／161分／タミル語／映倫区分G

配給：SPACEBOX

©Lyca Productions

9月5日（金）より新宿ピカデリーほかにて公開

<https://spaceboxjapan.jp/vettaian/>





3. 『アハーン』

ダウン症の青年アハーンをめぐる、障がいのある人々が直面する現実を真摯に見つめながらも、希望とユーモアを忘れずに、ダウン症青年の日常をストレートかつコミカルに描き上げた秀作ドラマ。

監督：ニキル・パールワニー

出演：アプリ・ママジ、アarif・ザカーリア、ニハリカ・シン、プラビター・ボールタークルほか

原題：Ahaan

2019年／81分／ヒンディー語、英語

配給:生活の医療社 配給協力:ラビットハウス

© Will Finds Way Films

9月5日（金）より新宿シネマカリテほかにて全国順次公開

<https://ahaan.jp/>

※5月号の記事中で『アハーン』の上映時間に誤りがありました。正しくは「81分」です。修正し、お詫びします。

情報提供：印度映画広報室

インドの「おいしい」「安全」を日本へお届けしつづけ、24年。

有限会社マカイバリジャパン (マカイバリ茶園アジア・日本総代理店)

東京都中野区沼袋 4-38-2 Tel: 03-5942-8210 Fax: 03-5942-8211 makaibari_japan@teamakaibari.co.jp www.makaibari.co.jp

ISHII TRADING PRIVATE LIMITED (インド会社) info@ishii.co.in

E52 Hauz Khas Main Market, New Delhi-110016, INDIA

元ネルー大学教授ブレム・モトワニ氏がメールマガジンにてインドからお届けする「インドの今」。

ご登録は、マカイバリジャパンのホームページから。 www.makaibari.co.jp

ガネーシャ通信

<書籍紹介>

書評：鈴木千歳氏の集大成

「蓮の花の知恵 —インドの児童文学にかかわって」

- ・ 著者：鈴木千歳（すずき ちとせ）
- ・ タイトル：『蓮の花の知恵 —インドの児童文学にかかわって』
- ・ 出版社／発売日：小学館スクウェア／2025年6月30日刊行
- ・ 仕様：172頁、ISBN 978 4797981353、自叙伝と寄稿集を兼ねた構成



鈴木千歳氏の最新作『蓮の花の知恵 —インドの児童文学にかかわって』は、日本とインドの文化交流、特に児童文学に捧げた半生を綴る一冊だ。1985年のインド初訪問以来、鈴木氏はいかにしてインド児童文学という未開の地を切り拓いてきたのか。本書は、その活動の軌跡と深い「知恵」を凝縮している。

ユネスコ派遣、日本初のインド児童文学展監修、「インド児童文学の会」設立に至る歩みが当時の感動と共に描かれる。会誌『チャンパの花』からの再録では、「インド児童文学のながれ」や「日本に伝播したインドの説話」など、貴重な考察や資料を通じて、インド児童文学の歴史と日本への影響が深く理解できる。

また、代表的な翻訳作品であるラスキン・ボンド作「青い傘」の再録も本書の大きな魅力。鈴木氏の言葉を通して、インドの風土や人々、そして子どもたちの豊かな内面が鮮やかに立ち現れる。

『蓮の花の知恵』は、単なる回顧録ではない。異文化理解や国際交流の意義を教えてくれる、知的好奇心を刺激する一冊だ。蓮の花が泥の中から清らかな花を咲かせるように、鈴木氏が培ってきた「知恵」が、多くの読者の心に静かに響き渡ることを期待したい。



言語とテクノロジーを、日本とインドで

▶ 翻訳 / ローカライズ

英語や日本語とインドの
各言語間双方向の翻訳 / 通訳
80 言語以上に対応する
翻訳・ローカライズサービス

▶ ソフトウェア開発

▶ IT サポート業務および 人材コンサルティング

▶ インド現地における各種印刷物制作

▶ インド現地における市場調査など



フィデル・テクノロジーズ株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-3 九段プラザビル 7 階
電話：03-6261-4910（翻訳・印刷・現地調査）
電話：03-6261-3309（開発・IT サポート）
E メール：info@fideltech.com Web：fideltech.jp



Fidel Softech Ltd.

Address: 2nd Floor, West Wing, Marisoft IT Park 3,
Kalyani Nagar, Pune 411014 (MS), India
Tel: +91-20-49007800
Email: sales@fidelsoftech.com Web: fidelsoftech.com

書評：安樂瑛子

「汗と笑いと煩惱のアジアミックスカルチャー絵日記」

- ・ 著者：安樂瑛子
- ・ 出版社：書肆侃侃房（KanKanTrip mini 第1弾）
- ・ 発売日：2025年6月16日
- ・ 仕様：四六判、並製224ページ、オールカラー、
定価1,900円＋税
- ・ スケッチブック片手にアジア各国を巡る“絵日記形式エッセイ”。
文化・宗教・食・日常風景を現地の体感を交えて楽しく
綴った、KanKanTrip miniシリーズの第1弾です



「汗と笑いと煩惱のアジアミックスカルチャー絵日記」は、著者が見た、感じた、そして時に混乱したアジアの日常を、飾らない言葉とイラストで綴った珠玉のエッセイ集です。ページをめくるたびに、アジア各地の熱気、人々の温かさ、そして予測不能な出来事が、まるで目の前で繰り広げられているかのように鮮やかに浮かび上がってきます。

本書の最大の魅力は、そのタイトルが示す通り、「汗」「笑い」「煩惱」という人間の根源的な感情や状態が、アジアの多文化な背景と見事に融合している点でしょう。真夏の路上で噴き出す汗、ちょっとしたハプニングから生まれる爆笑、そして異文化の中で感じる戸惑いや欲望といった「煩惱」が、それぞれのエピソードにリアリティと人間味を与えています。著者の観察眼は鋭く、細部に宿る面白さや、一見すると理解しがたい現地の習慣も、ユーモアを交えながら等身大の視点で描かれています。

絵日記形式という構成も、本書の親しみやすさを一層高めています。文章だけでは伝わりにくい現地の空気感や人々の表情が、素朴ながらも魅力的なイラストによって補完され、読者をアジアの路地裏へと誘います。各エピソードが短くまとめられているため、気軽に読み進めることができ、ふとした瞬間に笑みがこぼれること請け合いです。

アジアの多様性を愛する人にはもちろんのこと、海外旅行に興味があるけれど一歩踏み出せない人、あるいは日々の生活にちょっとした刺激が欲しい人にも強くお勧めしたい一冊です。この絵日記を読み終える頃には、きっとあなたも「ああ、またアジアに行きたい！」という衝動に駆られていることでしょう。

日印協会からのご案内 「短期特別講座」

大学生・大学院生限定（会員・非会員可）

《テーマ》 【大国インド — 4つのリアル】

1日目 9/1（月）

①政治・外交 「インドの大国化を読み解く」

笠井亮平（岐阜女子大学南アジア研究センター特別客員准教授）

②社会・文化 「映画を通してインドを知る」

松岡環（アジア映画研究者）

2日目 9/8（月）

①法律 日本人弁護士からみたインド

白井美和子（西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士）

②経済 躍動するインド経済——自動車産業を中心に

花田亮輔（日本経済新聞 前ムンバイ支局長・

日本経済新聞ビジネス報道ユニット 自動車チームキャップ）

《日 時》 2025年9月1日（月）、9月8日（月）

時間：12:30 受付開始 13:00 開会 16:40 閉会のあいさつ
（17:00～17:45 ネットワーキング）

《会 場》 （公社）日本記者クラブ

東京都千代田区内幸町2-2-1

日本プレスセンタービル9階 大会議室

《定 員》 定員各日30名

《参加費》 各日：1,000円

《お申し込み》 メール「partner@japan-india.com」

または、電話 TEL: 03-6272-4408



日印協会からのご案内 会員限定「天竺茶話会」

講師の方を招いて、あらかじめ決めたテーマで参加者の方々と話し合うお茶会です。

インド通の方、もっともっとインドについて知りたい方、インドについて詳しくなりたい方、皆様のご参加をお待ちしております。
どうぞお気軽にご参加ください。

- 《テーマ》 「マハー・クンブ・メーラーと国際ヨーガ・デーに参加して」
- 《講師》 竹内想子 ヨーガ講師（アーンドラ大学 ヨーガ専攻博士課程）
- 《日時》 8月19日（火）14:00-15:30（受付開始13時45分）
- 《会場》 公益財団法人日印協会 会議室
東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル 6階
- 《定員》 約18人※定員数になり次第、締切らせて頂きます。
- 《参加費》 お茶菓子とお茶代 1,000円(当日現金)
- 《お申し込み》 メール「partner@japan-india.com」
または、電話 TEL: 03-6272-4408



公益財団法人日印協会

住所： 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階
 電話番号： 03-6272-4408 ファックス： 03-6272-4135
 メール： partner@japan-india.com
 ホームページ： <https://www.japan-india.com>
 MJIA(Monthly Japan-India Association)
 2025年7月号（2025年7月25日発行）
 発行人：齋木 昭隆 編集人：末永 繁一（事務局長）



<法人会員一覧>

2025年7月25日現在 (50音順)

特別法人会員 71社

株式会社 朝日新聞社
ARMS株式会社
医療法人社団 育健会
株式会社伊藤園
伊藤忠商事株式会社
ウェブスタッフ株式会社
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所
エア・ウォーター株式会社
株式会社エイチシーエル・ジャパン
株式会社NTTドコモ
株式会社川内美登子・植物代替療法研究所
キャノン株式会社
クエスト・グローバル・ジャパン株式会社
蔵町工業株式会社
黒崎播磨株式会社
株式会社グローバルヒューマニー・テック
国際縄文学協会
国際スポーツ振興協会
公益財団法人 国際文化会館
小島国際法律事務所
株式会社小松製作所
サントリーホールディングス株式会社

ジェンパクト株式会社
ジャパンベガサスツアー株式会社
株式会社シンリョー
スズキ株式会社
住友商事株式会社
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
世界開発協力機構
世界芸術文化振興協会
全日本空輸株式会社
総合警備保障株式会社
双日株式会社
第一三共株式会社
第一生命ホールディングス株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社大和証券グループ本社
千代田化工建設株式会社
ティー・アイ・シー協同組合
株式会社ディー・エヌ・エー
株式会社TTJ・たちばな出版
一般財団法人東京芸術財団
株式会社東芝
株式会社東横イン
戸田建設株式会社
豊田通商株式会社
鳥飼総合法律事務所

株式会社日新
日本航空株式会社
株式会社日本視聴覚社
日本製鉄株式会社
日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社菱法律・経済・政治研究所
株式会社日立製作所
フィデル・テクノロジーズ株式会社
株式会社フジタ
富士フイルム株式会社
株式会社プレジィール
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
松田綜合法律事務所
丸紅株式会社
株式会社MIXI
株式会社ミスズ
三井物産株式会社
三菱商事株式会社
民間外交推進協会 (FEC)
武蔵野メディカルシステム株式会社
株式会社メタルワン
郵船ロジスティクスグローバルマネジメント株式会社
株式会社ライズ・ジャパン

一般法人会員 145社

株式会社IHI
株式会社IPパートナーズ
株式会社アシックス
アセアン・ワン株式会社
A'ALDA PTE. LTD.
株式会社 安藤・間
アーチ株式会社
一般社団法人 ART OF LIVING
いすゞ自動車株式会社
インド日本商工会
株式会社INPEX
エア・インディア リミテッド
SBSホールディングス株式会社
株式会社エトワール海渡
株式会社FTO
エンビジョンエンタプライズソリューションジャパン(株)
冲印友好協会
株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル
株式会社オリエンタルランド
オーウィル株式会社
株式会社オープンハウスグループ
加賀電子株式会社
鹿島建設株式会社
カナデビア株式会社
亀田製菓株式会社
関西学院大学
株式会社クボタ
株式会社熊谷組
株式会社 啓文社
株式会社 ケー・アンド・エル
鴻池運輸株式会社
株式会社交洋
株式会社講談社
酒井重工業株式会社
株式会社 サカタのタネ
公益財団法人笹川平和財団
株式会社 サンウェル
山九株式会社
三洋化成工業株式会社
G-8 INTERNATIONAL TRADING 株式会社
JFEスチール株式会社
JGREEN POWER PRIVATE LIMITED
株式会社システムコンサルタント
株式会社静岡ガス
株式会社静岡銀行

有限会社シタァール
品川イーストクリニック
有限会社ジーエストラベル
株式会社商船三井
鈴与株式会社
住友重機械工業株式会社
住友電気工業株式会社
住友不動産株式会社
積水ハウス株式会社
セコム医療システム株式会社
ZEUS LAW
医療法人社団創生会 町田病院
SOMPOホールディングス株式会社
大成建設株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社大創産業
株式会社タマイインベストメントエデュケーションズ
学校法人都築育英学園
露木興業株式会社
TMI総合法律事務所
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド
株式会社 帝国ホテル
帝人株式会社
株式会社テクノロジーONE
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
株式会社デンソー
TECH JAPAN 株式会社
株式会社TBSホールディングス
株式会社電通
東京海上日動火災保険株式会社
東洋アルミニウム株式会社
東レ株式会社
飛島ホールディングス株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社トピア
内外トランスライン株式会社
株式会社中村屋
株式会社ナベル
株式会社ニトリホールディングス
株式会社ニフコ
西村あさひ法律事務所
日印ビジネス支援協会株式会社
日産自動車株式会社
日精エー・エス・ビー機械株式会社
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
税理士法人 日本経営
日本信号株式会社
株式会社 日本経済新聞社
日本航空電子工業株式会社

公益財団法人日本交通公社
一般財団法人 日本国際協力センター
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本放送協会
株式会社 日本マルコ
日本郵船株式会社
日本電子株式会社
野村不動産株式会社
野村ホールディングス株式会社
株式会社ノリタケカンパニーリミテド
ハイカル ジャパン
株式会社博報堂
株式会社 阪急交通社
阪和興業株式会社
パナソニックホールディングス株式会社
株式会社日吉
株式会社ピーアイ・ジャパン
BEYOND NEXT VENTURES株式会社
株式会社BS日本
BLS INTERNATIONAL SERVICES LIMITED
公益財団法人フォーリン・プレスセンター
富士通株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士電機株式会社
BAKER TILLY ASA INDIA LLP
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
フォースバレー・コンシェルジュ株式会社
株式会社ボルテックス
前田建設工業株式会社
株式会社みずほ銀行
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社三井住友銀行
三菱重工業株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社ミツバ
一般社団法人MEDICAL EXCELLENCE JAPAN
森・濱田松本法律事務所
株式会社ヤクルト本社
株式会社安井建築設計事務所
ヤマハ発動機株式会社
ヤマハエレクトロニクス株式会社
ユーピーエルジャパン合同会社
豫洲短板産業株式会社
読売新聞東京本社
ラリス株式会社
学校法人立命館
ロジスティード株式会社
YKK株式会社
医療法人社団和風会

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。

JAL 羽田-デリー線、成田-ベンガルール線
好評運航中!



おかげさまでJALグループは、8年連続で
世界最高ランクの5-STAR AIRLINE*に認定されました。
* 2025年SKYTRAX社認定



明日の空へ、日本の翼